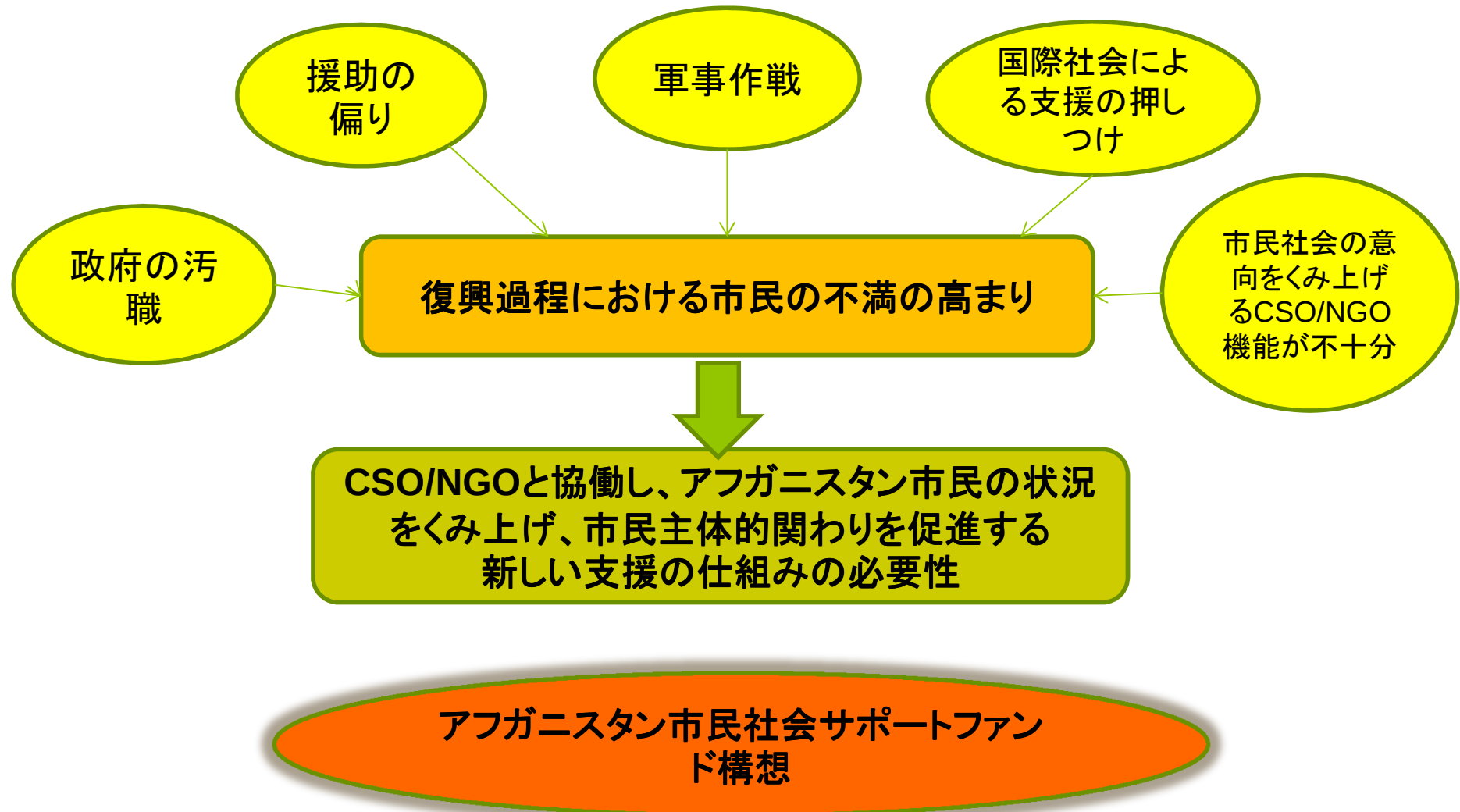


アフガニスタン市民社会 サポートファンド構想

アフガニスタン市民社会サポートファンド検討会メンバー

特定非営利活動法人 難民を助ける会(AAR)
特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター(JVC)
特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)
一般社団法人 シビルソフィア(CS)

アフガニスタン市民社会サポートファンドの 必要性



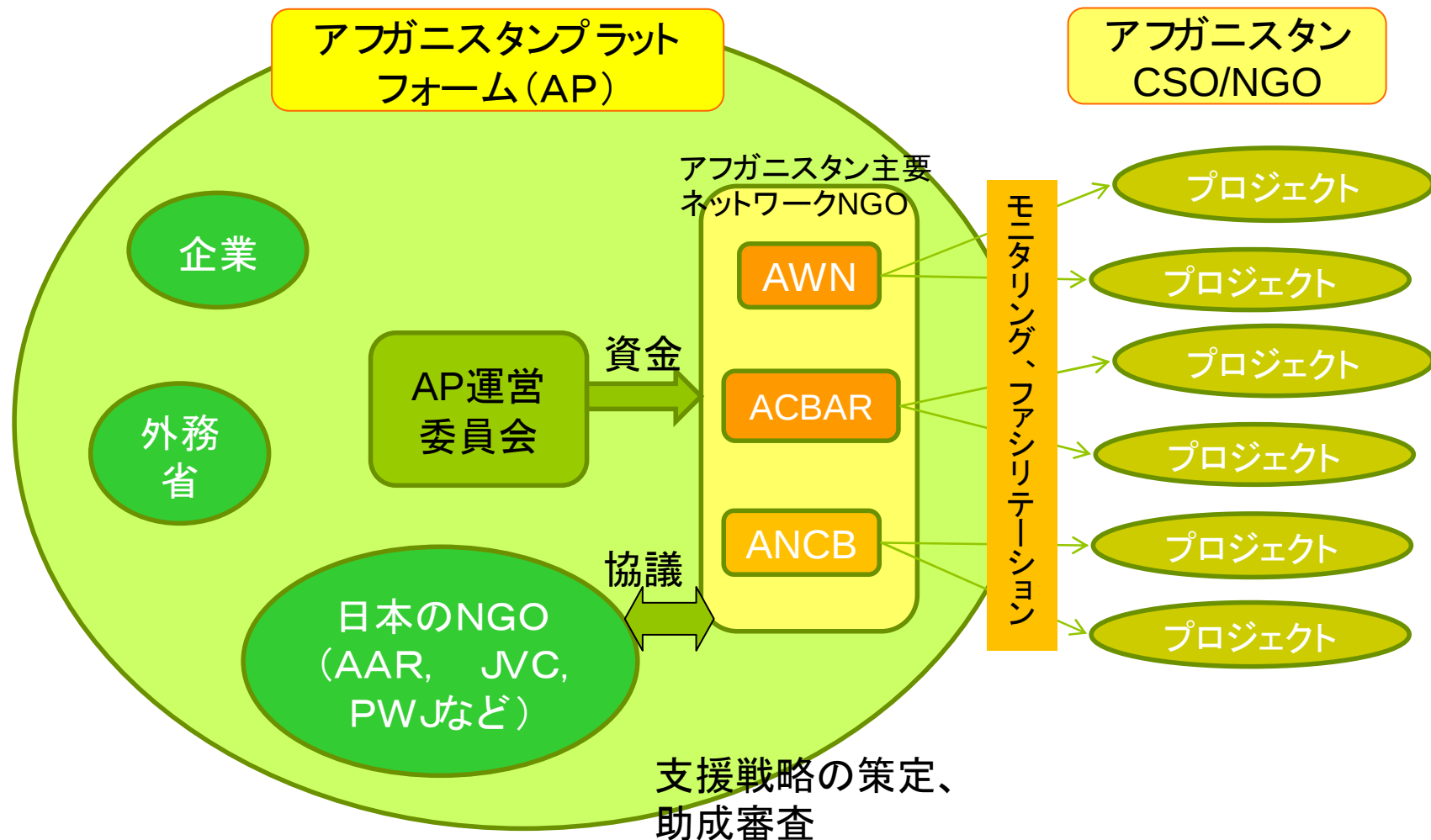
アフガニスタン市民社会サポートファンド 構想理念

- 日本のNGOとアフガニスタンNGOによる運営主体が、現地NGOが実施する事業に助成を行うシステム
- 運営主体が戦略を練り、戦略に従って助成
- アフガニスタンの草の根レベルの貧困を緩和し、市民社会が復興へ主体的に関わる支援
- 支援の決定過程に、アフガニスタンのNGOが関与
- 中立性、信頼性をもって受け容れられている日本の政府、NGOが参加

運営主体

- 運営主体：アフガニスタン・プラットフォーム（AP）
運営委員会
日本のNGO JVC、PWJ、AAR など
アフガニスタンのNGO
ACBAR、ANCB、AWN など
外務省、民間財団、民間企業
AP運営委員会が、戦略を練り、その戦略に従ってアフガンNGOに事業助成を行う

アフガニスタン市民社会サポートファンドの 仕組み概念図



助成プロセス

- AP委員会は、6ヵ月に1度、助成審査を実施
- 専門家や国際機関も参加
- 助成対象は、現地NGO、コミュニティ組織、ネットワークNGOなど多様な領域を対象
- 定期的にモニタリングを実施
- 助成規模：年間10億円（当初）
- 財源：日本のODA、民間資金など

スケジュール

◆ 準備

- ・2010年度 主要ネットワーク団体日本招聘による協議
- ・2011年度 主要ネットワーク団体との協議(カブール調査、2月日本招聘)(予定)

◆ フェーズⅠ(2012年)

アフガニスタン主要ネットワークNGOに対するキャパシティビルディング(事業管理、M&E、アフガンCSO／NGOへのファシリテーション、政策提言など)

◆ フェーズⅡ(2013年～)

アフガニスタンCSO／NGOへの助成事業開始

展望・課題

- APは、現地市民社会と密接に関わりながら、包括的にコミュニティに裨益する支援展開を目指
- 直接コミュニティからの声を吸い上げ、戦略を持って事業を実施
- 住民の当事者意識を向上させ、地域社会とNGOとの橋渡しの機能も有する
- 様々な連携を通じて、支援の波状効果を生み出す
- 紛争予防、平和構築につながる支援とする
- 当ファンドが成果を挙げれば、他の紛争地へも応用が可能